

平成 21 年度 第2回 FD シンポジウムの概要



2010年2月18日(木)15:30から17:20まで、本年度第2回目のFDシンポジウムが本校にて開催されました。シンポジウムには59名の教員が参加し、積極的な議論が行われました。今回のシンポジウムでは、「やる気の出る授業アンケート結果分析」と「授業評価アンケート改訂」を主なテーマとして、教育改善推進室の教員4名による報告が行われました。

まず、最初に電気・電子システム工学科の小関修教員(教育改善推進室長)から「学習意欲低下調査と授業評価アンケートについてのPDCA」の発表があり、学習意欲からみた授業評価アンケートの改訂の必要性が示されました。

次に、一般学科の今徳義教(教育改善推進室員)から「やる気の出る授業に関するアンケート結果の分析」の発表がありました。本校学生の学習意欲の状態について報告があり、その結果から、学生のやる気を引き出す授業の有効なポイントとして、①授業での説明をわかりやすく、理解しやすくすること、②授業内容の興味・関心を引き出す、③授業の準備や進行をしっかりと、が示されました。

引き続き、今教員より「学習意欲を育てるには」の発表がありました。学習意欲を育む方策として、①基本的な生活習慣を身につけさせる、②教員が手本になる、③適切な目標を持たせる、④周りから受け入れられていると学生が感じられる(他者受容感)が重要であること、そしてそれには、日頃の授業だけでの取り組みだけでは難しく、様々な教員が協力し合うことが必要であることが示されました。

次に、機械工学科の田中淑晴教員(教育改善推進室員)から「授業評価アンケートに関する学生ヒアリング結果」と「アンケート用紙、アンケート結果出力の書式」が発表されました。授業評価アンケートについて教員側、

学生側の双方の信頼度を向上させるために、アンケート結果を学生に フィードバックする、学生の記入の負担を減らす、教員が自由に設定できる質問項目を設ける等のアンケート改訂点が紹介されました。

最後に、電 気・電子システム工学科の犬塚勝美教員(教育改善推進室員)から改訂するアンケートの「質問文」と「今後の計画」が発表されました。やる気の出る授業に関するモデルから、キーワード(授業がわかりやすい、理解しやすい等)を設定し、それに合うように質問項目を修正したことや、アンケートの実施方法、時期などが発表されました。改訂されたアンケートは、平成 22 年前期から、本科および専攻科で実施される予定です。

質疑では、授業評価アンケートに対する多数の意見があがり、教育改善推進室ではそれらの意見を踏まえ、授業評価アンケート改訂案を固める予定であることが説明されました。